

# 戦争法案は絶対阻む

## 弁護士会集會に1100人

新潟「首相は国民の声聞け」



ペンタゴンを掲げ、戦争法案廃案を訴える参加者1100人、新潟市

新潟県弁護士会は9日夜、新潟市で安保法案（戦争法案）に反対する集會とパレードを行いました。子ども連れの母親やグループできた保育士など1100人にふくれあがりました。

平西也弁護士会長は「憲法は権力を縛る最高の法規で先人の英知の結果だ。議論不十分で国民の多くが反対している憲法違反の法案だ」と訴えました。

小池清彦加茂市長は「後方支援は明確な戦争の大事な要素。なんとしても阻止しよう」と力説。福島からの避難者・磯貝潤子さんは「国は私たちを見捨てる。今度こそ戦争する国にしようとしている。若いママたちは、だれの子どもも殺させないの気持です。」と訴えました。

## 宮崎で800人集う

医師・僧侶・自衛官家族も

宮崎県内の弁護士が呼びかけた「戦争イヤだ安保法案NO宮崎緊急大集會（主催、同実行委員会）が9日、宮崎市山形屋前で行われ、800人が参加しました。

宮崎産業経営大学法学部の阿部純子准教授、医療法人ハートピア細見クリニックの細見潤院長、真宗大谷派英空寺僧侶の橋留子さんや、自衛隊に入隊した子どもがバフハラや旗行などで行った家族でつくる「自衛官のいのちを守る家族の会」らがりょーとくを、戦争法案阻止を訴えました。

15歳の頃、鹿児島海軍航空隊予科練に入隊した経験を持つ白崎麻さん（84）は「戦争経験者として安保関連法案は絶対阻止しなければなりません。戦争法案に反対する青年団体（SULIMYAZAKI）の白江好友代表は、同会主催の「若者憲法デモ宮崎」で行っているコールに参加者と一緒に唱和しました。

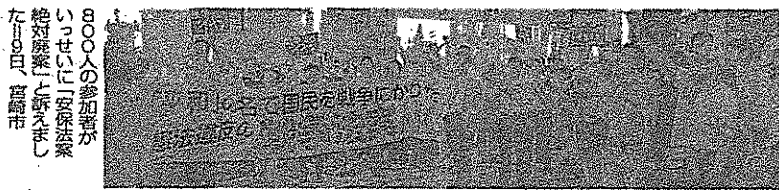
政界からは、日本共産党の前原徹恵美県議、民主党の渡辺創議、社民党の岩切達哉議員があいさつ。

集會では「廃案にするまで声を上げ続け、行動することを宣言します」とした集會宣言を採択しました。

## 廃案迫る連続行動 SEALDs

総がかり行動実行委員会や、SEALDs（シールズ＝自由と民主主義のための学生緊急行動）は、戦争法案廃案と安倍政権退陣を迫る行動を連日のように国会周辺でおこないます。なかでも14日午後6時半からの国会正門前の大集會は数万人規模にしたいと多くの参加を呼びかけています。主な計画は次のとおりです。

- ▷11日（金）午後1時から、国会正門前で座り込み。6時半から、国会正門前で集會
- ▷14日（月）午後1時から、国会正門前で座り込み。6時半から国会正門前で大集會
- ▷15日（火）午後1時から、国会正門前で座り込み。6時半から、国会正門前で集會
- ▷16日（水）午後1時から、国会正門前で座り込み。6時半から、国会正門前で集會



800人の参加者がいっせいに「安保法案絶対廃案」と訴えました。9日、宮崎市